



コンパクトカメラで撮影したアカツメクサ



実習中に記念撮影をする学生



写真の撮影方法を解説するいがりまさしさん



新潟大学演習林ニュースレター

Niigata University Forest Newsletter

新潟大学佐渡自然共生科学センター 演習林

第21号 2021年10月

島嶼生態学特論実習の報告

2021年6月14-16日の日程で島嶼生態学特論実習が実施され、新潟大学の院生4名、静岡大学の院生3名、日本自然環境専門学校(仮称)の学生2名、飛び入りで参加した佐渡研究室の学生3名の計12名が参加しました。この実習では新潟大学の佐渡演習林や妙見山を散策しながら島嶼に形成された森林の特徴を観察し

島嶼生態学特論に参加して

6月14日から16日までの3日間、植物写真家であるいがりまさし特別講師による島嶼生態学特論に出席させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。自分は動植物等を観察することは元々好きだったのですが、これらの被写体を写真に印象的に美しく収めるといったことにはあまり関心を持つことがありませんでした。初日、本土からの移動後に佐渡島内中央に位置する妙見山に登り、その道中の植生や植物の説明を聞きながら、おのおの気になったものを写真に撮ることをしました。このときはとりあえず説明のあった種の特徴さえ分かればよい、という気持ちでいたため、特に撮影に意識することはありませんでした。本講義終了後に、このときの写真を見返したのですが、全体的に暗くて見づらい、ピントがうまく合っていないといった、なかなかひどい有様でした。その日の夜から次の日にかけて、いがり先生からカメラの構造や仕組み、露出補正や感度、シャッタースピードなどで気をつける点や構図のポイント等についてお話がありました。これらのお話を聞き、改めて演習林内の植物写真を撮影しましたが、ほんの少し、露出補正を低め/高めに調節することや、なるべく撮りやすい被写体を選ぶことを意識した結果、目視し

島嶼生態学特論を終えて

佐渡島で「あのいがりまさしさんの実習があるよ!」と聞いたときはとても驚きました。植物を同定する際に使用している図鑑を作成した方にお会いできる機会はないと思って即決しました。

いがりさんが撮影した写真を見て、コツを聞きながら実習に取り組みました。まずはいい被写体を探す



岩場に咲くハナニガナ

たほか、植物写真家のいがりまさしさんを講師としてお迎えし、野外での植物写真の撮影方法について、講義や現場での実演を交えながら詳しく解説していただきました。以下では、実習に参加した学生の体験談を紹介していきます。

(特任助手 古郡憲洋)

たときよりも花の色合いや背景が美しく残っており、写真という記録媒体は実物の美しさを損なうどころか、より印象的に残すこともできる一種の感動を味わうことができました。また、カメラの性能に頼るだけでなく、実際に持っているスマートフォンのカメラでも少し意識するだけで綺麗な写真を撮ることができ、いがり先生もスマートフォンのカメラをよく使っているというのはとても意外でした。



トビシマカンゾウと大野亀

最終日には大野亀のトビシマカンゾウを撮影しましたが、今までは写真を撮る意識がなかったものが、写真を撮る楽しさを味わうことができるようになっていました。この短期間実習内の経験はこれからの生活において、写真を撮る楽しさをより充実させてくれるものとなり、改めていがり先生への感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。

(佐渡研究室 修士1年 渡部侑果)

のですが、これがなかなか難しかったです。慣れてくるとだんだん見つけることができるようになってくるのですが、最初の頃はこれが大変でした。

一つ驚いたのは写真撮影の際にスマートフォンがとてもきれいに撮影できるということでした。ここぞという時には良いカメラで撮影するそうですが、動画やコントラストの激しい場所ではスマートフォンの方がよく撮れることもあるそうです。

実習が終わってから写真を撮りたくて仕方なくなり、野外に出る際は必ずと言っていいほどカメラを持ち歩いては植物を撮影していました。参加することができて本当に良かったです。これから良い写真を撮影できるように頑張りたいと思います。

(日本自然環境専門学校3年 山上なぎさ)

今号では、いがりまささんのレクチャーを受けた学生が実習中に撮影した渾身の一枚を集めてご紹介します。どの写真も被写体選びに始まり、写真の構図決め、露出補正の調節など、細部にこだわって撮影された作品となっています。タイトルも個性的なものも多く作品に対する思い入れが滲み出ています。通常の紙面

ではお伝えきれない「佐渡の自然風景や植物の様子」など、魅力あふれる瞬間を捉えた作品が目白押しです。コロナ禍で気軽に外出できない今だからこそ、皆さまに少しでも佐渡で過ごしているような雰囲気味わっていただけましたら幸いです。

(特任助手 古郡憲洋)



「↑」
日本自然環境専門学校 3年 山上なぎさ



「トキのいる空」
静岡大学 修士1年 佐藤温起



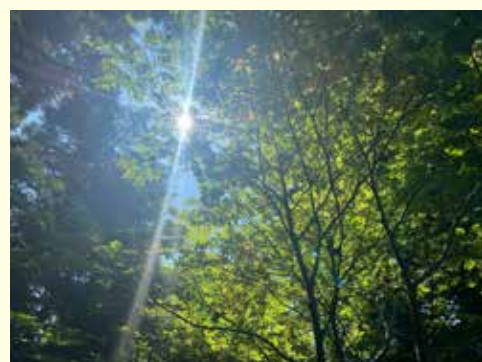
「ひかりへと延びる手」
日本自然環境専門学校 3年 川瀬琢巳



「Aconitum sp.」
新潟大学 修士1年 鈴木由妃



「演習林風衝地」
新潟大学 修士1年 渡部侑果



「初夏」
新潟大学 修士1年 和泉柚子葉



「水と緑、ぽつぽつと白」新潟大学 修士1年 佐藤亮祐



「Tobishimakanzou」
静岡大学 修士1年 小松亮

「センター・オブ・ザ・ロード」
静岡大学 修士1年 斎藤彼方



編集後記：演習林では夏休みの怒涛の実習ラッシュが終わり、つかの間の休息といった感じです。私個人としては、人生で初めて学生の前で講義をしたり、演習林を案内したりと、忙しいながらも充実した密度の濃い時間を過ごすことが出来ました。拙い講義を聞いてくださった学生さん達には感謝しかありません。次号では、夏の実習の様子や、シリーズで掲載している佐渡研究室の学生の研究内容などを中心に紹介する予定です。次回のニュースレターもお楽しみに!! (特任助手 古郡憲洋)

共同利用実習募集中!

佐渡演習林では、共同利用実習、調査・研究の受け入れを随時行っています。お気軽にご相談ください。

活動の様子はwebでも紹介しています!

ホームページ

ブログ



新潟大学演習林ニュースレター

編集・発行：新潟大学 佐渡自然共生科学センター 演習林

〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2

tel: 0259-78-2613 fax: 0259-78-2929 e-mail: sadoken2011@gmail.com

ホームページ http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/sado_html/sado_index.html

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。